

8 特殊な歯周病

学習のポイント

環境因子や先天的因子に修飾された特殊な歯周病について、臨床症状の差異について学ぶ。とくに歯肉の状態変化を視覚的に捉えることができるようにする。

本項目のポイント

特殊な歯周病は、さまざまな臨床所見、診察(検査)データをもとに確定診断し、的確な治療を行わなければならない。とくに患者の年齢、現病歴、全身状態、歯肉や歯槽骨の所見に着眼する。また基礎疾患がある患者に特徴的に発症する病態もある。

ここを
チェック!!



口腔内写真やエックス線写真には必ず病態を診断するキーワードが隠されている。とくに歯肉の色や形態がヒントになる場合が多い。白色の歯肉は、剥離、壊死、貧血などが考えられる。また赤色の場合でも、歯肉が剥離したあとの状態は、びらん面が現れるために鮮紅色となる。歯肉の腫脹も、普通の歯周炎などにおいてみられる浮腫性の腫脹は可動性であるが、薬物性歯肉増殖症の歯肉は線維性で、比較的引き締まっているケースが多い。よって治療に対する反応も、浮腫性の場合には良好で、ポケットの減少も早く起こるが、線維性の場合には形態の変化量が少ないため、ポケットの劇的な減少が生じにくい。

1 特殊な歯周病の傾向

- 1 歯肉は、全顎にわたって出血しやすい
- 2 歯肉は、全顎にわたって腫脹または増殖の傾向を示す
- 3 局所治療を行っても、効果が思うように現れない
- 4 手術後の治癒が遅い
- 5 はっきりとした局所的原因なしに症状が悪化する
- 6 一部は、低い年齢から進行性にみられる
- 7 生活習慣病や全身疾患と関連して発現することがある

2 歯周病の分類

(日本歯周病学会, 2006)

- 歯肉病変* プラーク性歯肉炎
非プラーク性歯肉病変*
歯肉増殖
- 歯周炎* 慢性歯周炎, 侵襲性歯周炎
遺伝疾患に伴う歯周炎
- 壊死性歯周疾患* 壊死性潰瘍性歯肉炎
壊死性潰瘍性歯周炎
- 歯周組織の膿瘍 歯肉膿瘍, 歯周膿瘍
- 歯周一歯内病変
- 歯肉退縮
- 咬合性外傷 一次性・二次性咬合性外傷

*限局型と広汎型とに分けられる



歯肉膿瘍

歯肉に局限した膿瘍形成。魚の小骨や誤ったブラッシングなどで歯肉結合組織への細菌感染が生じる



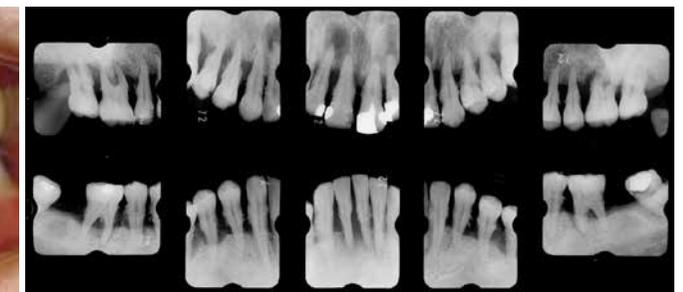
歯周膿瘍

深い歯周ポケットの入口が閉鎖し、歯周組織広範に炎症が広がると、排膿が防げられているので腫脹する



口腔乾燥症

歯肉の乾燥部には炎症が生じ、数歯に連続した口呼吸線が観察される



重度慢性歯周炎

55歳女性、広範部位の骨吸収がある。長期間のプラークコントロール不良によるものである



歯肉炎
歯槽骨吸収なし



歯周炎
歯槽骨吸収あり